

「地域が高齢化していく中、若者が自信をもって農業ができる将来像を描き、農業を盛り上げたい。」と話すのは、大崎市の今野真二さんだ。

農業に興味を持つきっかけは、先輩農家との出会いだ。食を支え人との繋がりを生む素晴らしい職業がどうしても盛り上がるのか、若者が農業に参入するのかを考えるようになった。そのためには「格好いい農業」を目指すべきと考え、2017年に営業職から転身し、肥料・農薬不使用栽培でトマトや大豆等約20品目の野菜を栽培。若者受けするスタイリッシュな加工品を開発した。

2021年にファストフード店「HIP CROPS(ヒップクロップス)」を開店。自ら栽培した季節の野菜を調理・加工して、カップ型パンに詰め込んだ「ベジベジパン」を販売している。

農業や金属加工に食品加工、店舗営業の分野に未経験で飛び込み、試行錯誤を重ねてきた今野さん。挑戦の原動力について「若者に農業の魅力を伝え、未来の担い手を呼び込み、農業の熱狂を創る！それだけだ」と熱く語る。

【記事提供】 大崎市農業委員会

ベジベジパンを手に今野さん



ベジベジパンの「てりたるバーグ」



店舗前に立つ今野さん

